

スマート牡蠣養殖による持続可能な水産業を振興！ 定着と横展開を推進し愛媛県下における牡蠣養殖の一大産業化を目指す！！

採択事業者名 株式会社リブル

コンソーシアム構成員 愛南漁協協同組合 | 上甲商会 | アグリファーム稲田 | 平田水産

県内拠点設置 あり

所在・役割 愛南町/営業所

事業概要

1. 事業の狙い

歩留りや収益性が悪化する愛媛県の牡蠣養殖において、スマート牡蠣養殖システムを導入し、環境(海洋・天候)データと生育・生存データを収集分析することで、牡蠣養殖の改善を図り歩留りや収益性の高い、持続可能な水産業を実現する。

2. 県内のターゲット事業者

愛媛県の牡蠣養殖事業者
愛媛県の漁業者
※特に収益性や後継者確保に悩まれる事業者

3. 紐づく課題

変わりゆく環境(海洋・天候)に加えて、原材料の品質低下に伴って、成品の歩留りや品質の悪化が進行している。産業再興のためには以下課題の解決が急務である。

1. 低歩留からの収益圧迫
2. 継続したデジタル化へのハードル
3. 漁師の勘の消失危機

ビジュアルなど

4. 実施内容

■実施スケジュール

6-7月:
試験漁場選定・設計@御荘湾
8-10月:
試験漁場整備@御荘湾
海洋モニタリング開始
11-2月:
検見→作業提案→実施→評価サイクルの実装
実装地域及び愛媛県下の他地域での勉強会実施

■検証項目

- ・海洋環境データの測定
- ・人工種苗の斃死数・サイズ・重量の測定
- ・養殖作業内容の記録
- ・各種データ及び記録の相関分析



解決策(サービス/プロダクト)

牡蠣の生育・生存状況をつぶさに確認し記録することで、環境(天候・海洋)や養殖作業が、歩留りや品質にどのように影響を与えるかを評価し改善につなげる。

1. 低歩留からの収益圧迫
→高歩留な人工種苗と管理型養殖の実装
2. 継続したデジタル化へのハードル
→継続したデジタル活用
3. 漁師の勘の消失危機
→養殖作業及び生育・生存データのアーカイブ化



デジタル活用の要素

取得データ

■環境データ

天候(気温・日照時間)、海洋(水温・塩分濃度・溶存酸素量)

■養殖データ

養殖作業記録、斃死数、サイズ、重量

データ活用による考察・示唆

環境データと養殖作業データの相関性を分析し、海域特性や特定環境下における最適な作業や成長予測を立てることで、歩留りや品質の改善を実現し、収益性を向上させることができる。

成果と今後

成果(含む想定)

	実装前		実装後(～今年度末)		今後3年の見込み (～2028年3月末時点)	
経済効果	歩留向上:5割以上 収益性(単価)向上:200%up 管理労力削減:8割以上		実装前と比較し約100%向上		計580,000個分の経済効果	
			10,000個あたりの経済効果 歩留向上:5割 収益性(単価)向上:200%up 管理労力削減:8割削減 2023年度:1件実装 2024年度:3件実装		2025年度:6件実装 人工種苗1万個 2026年度:6件維持&規模拡大 人工種苗3万個 2027年度:6件維持&規模拡大 人工種苗5万	
SDG進捗	【KPI ①】 歩留	50%	海域特性の解像度が 高まることで更に向上	56%	-	
	【KPI ②】 管理労力削減	50%	スマート牡蠣養殖の規模が 拡大することで更に効率化	80%		
	【KPI ③】					
デジタル人材輩出	【アクティブ】 サービス導入し、主として業務活用 【ポテンシャル】 ①導入事業者のスタッフ ②機器導入検討事業者 【関心層】 勉強会参加の事業者		【アクティブ】 1社×2名	2名	【アクティブ】 6社×2名	12名
			【ポテンシャル】 3社×2名	6名	【ポテンシャル】 6社×2名	12名
			【関心層】 6社×3名 (行政含む)。	15名	【関心層】 13社×3名	39名

新規実装・協業に至った事例

新規実装	新居浜市 民間事業者	本年度テスト実装、来季本番導入を目指す
新規実装	今治市 民間事業者	漁業者、漁協、行政の合意形成済み

その他の“for 愛媛”要素

行政の水産振興策、民間の兼業による収益性向上などを目的としたヒ視察や勉強会参加多数。

愛南町の牡蠣養殖事業者への浸透及び、愛媛県下での展開に向けた、営業所の設立及び現地雇用を検討中。